



エチオピア

①は以前の校舎。窓がないため光が入らず、風通しも悪くとてもほろっぽかったです。

ニプラン・ジャパン提供



ドゴソ小学校 2008年のライブで支援

エチオピアでは学校に通えない子どもたちが多く、大人になっても36%の人しか字が読めないという現実があります。学校まで何キロも歩かないといけないため途中で誘拐される危険があったり、子どもが生活のために働かなければいけなかったり、学校に通えない理由はさまざまです。設備や教科書も足りず、1冊を2、3人で使っていたそうです。ドリーム・パワー・コンサートが贈った学校は、授業に必要な設備が整っています。光があふれる教室で、安心して勉強ができるようになったのです。

ドリーム・パワー

Dream Power ジョン・レノンスーパーライブ

世界の子どもたちに学校を贈ろう!

10

ジョン・レノンって どんな人②

少年ジョン

ジョン・レノンは第二次世界大戦中の1940年10月9日、イギリスのリバプールで生まれました。父親の名前はアルフレッド、母親の名前はジュリアといいます。父親は船員で、いつも船旅をしていて、ジョンが生まれた時でさえ、どこにいるのかわかりませんでした。母親はそんな父親と別れるつもりで、他の男性と暮らし始めました。そのためジョンの面倒をみる事ができませんでした。そんなジョンをかわいそうに思った母親の姉、ミミ伯母さんにジョンは引き取られることになりました。両親と暮らすことができませんでした。両親と暮らすこともありませんでしたが、ミミ伯母さんとジョージ伯父さんの愛情に包まれ、すくすくと成長していきます。

ジョージ伯父さんの日課は、幼いジョンをひざにのせて新聞を読むことだったそうです。この新聞を読んでいるあなたたちのように、ジョンも小さなころから新聞を読んでいたのですね。

ミミ伯母さんの家にはたくさんの本がありました。ジョンは本を読むのが大好きになり、とくに「不思議の国のアリス」がお気に入りでした。読んでいるうちに登場人物を絵に描いたりして、絵も大好きになりました。

小学校6年生のころには自分で絵や文章を書いたり、雑誌を切り抜いたりして手づくりで雑誌を作っては、みんなに見せて喜ばせていたそうです。少年のジョンは自分でいろいろな物を考え、作ることもとても大好きで得意でした。

ジョンは、そんな人とは違う力を不思議に感じていたようで、自分はおかしな人か、天才のどちらかだろうと思っていたそうです。ジョンのその力は、のちに世界を変えていくことになりました。

(ドリーム・パワー ジョン・レノン音楽祭事務局・浜田哲朗)